

2021 年度事業報告

保全団体サポート事業

【相互交流の場の創出】

2020年9月に山形県大蔵村で開催予定だった第26回全国棚田サミットは、新型コロナウイルス感染症拡大のため1年延期となっていました。2021年も感染症が収まらず、残念ながら中止となりました。このため、毎回サミットで実施されている「棚田の守り人ミーティング」にも開催協力できませんでした。

一方で、エコプロ2021は当初実施が危ぶまれましたが、感染症に対する対策を講じた上で無事に開催され、例年の「日本の棚田共同展示コーナー」も11地域・団体の出展、実来場者1000人以上で、盛況に終わりました。しかしながら面積は従来と比べて半分、会場費負担は2倍となり、それに合わせて企画を変更しました。



都市住民向けの普及啓発事業

【川代プロジェクト】

プロジェクト7年目。棚田や農業・農村に関心のある皆さんが気軽に農作業体験ができる場を目指し、活動を行いました。新型コロナウイルス感染症が収まらない中、対策を図りつつ無理のない行事運営を心掛け、参加者及び地元住民の皆さんのご協力により5月2日田植え、9月5日稲刈りの行事を、例年より少ない参加者でしたが無事に行うことができました。川代集落が棚田学会賞を受賞し、3月には「つなぐ棚田遺産」に認定されるなど、これまでの棚田保全活動が評価され、今後の啓発普及活動に追い風となってくれるものと期待しています。また、仕入れた棚田米は皆様のご協力により完売し、美味しかったと好評でした。

【恵那地区・棚田ビオトーププロジェクト】

棚田ビオトープが出来てから16年目になります。さまざまな方々の協力を得て活動を継続実施することができました。岐阜県立国際園芸アカデミー学生による田植え・稲刈りはコロナ禍のためできませんでしたが、10月18日に棚田見学を実施しました。棚田ビオトープ田植え（5月29日、4名）、こどもビオトープ観察会（7月31日、大人3名、子供7名）、稲刈り（9月23日、4名）、ヤマアカガエルの卵塊調査「かえるの卵を探そう！（第15回）」（3月21日、5名）を実施しました。

【石部プロジェクト】

コロナ禍の状況が一進一退の中、現地保存会の活動と協調しつつ一年休んだ耕作を再開しましたが、イベントとして予定していた田植え体験（5月）と稲刈り体験（10月）については募集を中止し、年間を通してスタッフとボランティアの有志で耕作を行いました。畦切り6名、代掻き5名、畦塗り6名、田植え20名、草刈り2名（2回目の草刈りは感染拡大のため有志による作業も中止）、稲刈り7名のボランティアが参加しました。例年の10kg減の115kgの収穫となり、ボランティアの有志とスタッフで分けて、一部エコプロ2021にも出品し販売しました。



【入門・活動紹介イベントなど】

東京ビッグサイトで12月に実施されたエコプロ2021にブース出展し、全国から参加した10団体と共に「日本の棚田共同展示コーナー」で棚田啓蒙と交流に努めました。

旧暦棚田ごよみ紹介イベントなどは、新型コロナ拡大の影響で、本年も開催できませんでした。

まちの先生見本市は、集会イベントはコロナ禍で中止になりましたが、それに代わり新宿区ではオンラインによる「環境学習お役立ちサイト」を構築し、これに当会も参加しました。コンテンツとして①WEBサイト「棚田NAVI」②イラスト「棚田の生き物と植物」③動画「美しい棚田を守るために」を提供しました。



【旧暦棚田ごよみプロジェクト】

令和4年版でプロジェクト10年目の節目を迎え、会報「棚田に吹く風」に10年を振り返る特集を掲載しました。一般販売は約800部前後と例年と同程度の販売で、目標の1000部には届きませんでした。10年間で一定のリピーターは獲得できています。

2年目となる企業への名入れ販売は、前年度の会社ロゴを入れるだけのデザインから、各月に季節の植物や動物の写真と解説を入れるオリジナリティー溢れるデザインとなりました。

【棚田NAVIプロジェクト】

2022年2月末の段階で、約50か所について作業終了、掲載済みの累計は162か所となりました。また「特集」については「棚田アイス」「棚田CAMP」「棚田地域振興法」等タイムリーな構成となりました。プロジェクト内のノウハウ共有によりスタッフのスキルアップが出来ましたが、新規スタッフの獲得には至らず、スポンサーについても具体的な進展はありませんでした。

企業・団体向けの普及啓発事業

【CSR活動サポート事業】

新型コロナ感染症拡大の影響で各種イベントが中止され、企業も対応に追われたり活動縮小に追い込まれるものが多く、本年は新たなコンタクトはありませんでした。

組織運営について

インターネットの普及でさまざまな情報が手軽に入手できるようになり、一方でオーソドックスな会員制度の維持はなかなか難しい時代ですが、安定的な事務所運営の維持とNPO法人としての基準に則った組織経営に努めました。

【広報・Web】

会報の特集で「浪打ち際に迫る棚田」「葉山の棚田米でできたやさしいアイス」「旧暦棚田ごよみの10年」「棚田を応援する企業・団体」を取り上げ、バラエティー豊かな情報を発信することができました。ただし、後半の二つの特集は団体情報に偏るため、棚田NAVIへの特集の転載は最初の二つに限られました。「棚田写真館」の「棚田NAVI」への移行が完了しました。また、棚田ネットワークが農水省の「つなぐ棚田遺産オフィシャルサポーター」に認定され、いろいろな発信をサポートできるようになりました。

